

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	医学部学生に対する在宅医療を中心とした地域医療学実習の効果に関する検討 ―学生の感想および教育に携わったスタッフからの評価―
演者名	山中 崇 1)、野口麻衣子 1)、土屋瑠見子 2)、平野 央 1)、玉井杏奈 1) 3)、飯島勝矢 4)
所属	1) 東京大学医学部在宅医療学拠点 2) 東京大学大学院医学系研究科地域看護学分野 3) 台東区立台東病院 4) 東京大学高齢社会総合研究機構

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		9

目的

医学部学生に対する在宅医療を中心とした地域医療学実習で得られた事項、ならびに教育を担当したスタッフからの評価について検証し、今後の実習プログラムの改善につなげることを目的とした。

方法

平成 25 年 11 月～平成 26 年 7 月に医学部医学科 5 年生～6 年生 42 名を対象に地域医療学実習を実施した。1 グループ 6 名、それぞれ 2 週間、千葉県柏市を中心とする診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所などにおいて実習を行った。終了後に記載された感想文をもとに、実習で得られたことおよび実習に関する要望をカテゴリー別に分類した。また、教育を担当したスタッフから得られたフィードバックについて、よい評価と好ましくない評価に分け、カテゴリー分類を行った。

結果

1. 学生が記述した感想文より、実習で得られたこととして 134 項目が抽出された。これらについてカテゴリー分類した結果、15 カテゴリーに分類され、主なものは以下の通りであった。地域医療・プライマリ・ケアの理解 30、制度 24、多職種連携 16、在宅医療の体感 9、訪問看護 7、ケアマネージャー7、家庭介護力 7、コミュニケーション 6、在宅療養者 6、社会的問題など治療以外の側面の認識 5、在宅医療の意義 5。
2. 教育を担当したスタッフから、好ましい評価として、態度 114 (積極性 43、誠実・真面目・礼儀正しさ 71)、理解 18、検査・診療への参加 12、診療内容の報告 10、優秀な能力 7 などがあげられた。好ましくない評価としては、欠席・遅刻・早退 19、コミュニケーション 7、態度 6、服装 5、消極性 2 があげられた。

考察

多くの学生から、地域医療・プライマリ・ケアの理解、制度面、多職種連携に関する考察が得られた。教育を担当したスタッフからは、実習に取り組む姿勢・態度に関するコメントが寄せられた。今回の検討により、実習プログラムを改善するための有益なフィードバックを得ることができた。